

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	集団規定の性能規定問題検討小委員会	主 査 名：加藤仁美 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築法制委員会	委員長名：松本光平
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>本小委員会では、建築基準法集団規定を対象とし、現行の建築形態規制(仕様規定)による各種制限の効果について、これらの総体により実現される市街地形態が生み出す市街地環境等の水準を評価・検証し、各種制限の「性能規定」化の可能性とその問題・課題を明らかにすることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年度：集団規定における各種規制(仕様規定)による市街地環境等の水準についての効果、問題・課題の把握。性能規定化による問題点の抽出。 ・2年度：集団規定における各種規制(仕様規定)による市街地実態の把握。 ・3年度：小委員会としての提案検討 ・4年度：成果発表：集団規定の「性能規定」化への提言および報告書作成) 	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：あり</p> <p>加藤仁美(東海大学)、岡辺重雄(想像都市研究所)、桑田仁(芝浦工大)、赤崎弘平(大阪市大)、有田智一(筑波大)、稲葉良夫(ガイ住宅都市設計工房)、内海麻利(駒澤大学)、樫田攻(京都確認検査機構)、上山肇(江戸川区)、坂本圭司(JR 東日本)、鈴木伸治(関東学院大学)、土岐悦康(日本 ERI)、中川智之(アルテップ)、藤井さやか(筑波大学)、山田浩輝(山田浩輝建築研究所)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2008 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：なし

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>小委員会では、本来の集団規定の性能規定は、市街地環境総体(まち)の性能評価にもとづく規制誘導手法であるべきという考え方を基本に、市街地環境の目標性能水準(目標)と集団規定の規制基準(手段)の関係性について明らかにすることを目標に活動を重ねてきた。その結果、集団規定の性能規定化については、運用面では可能性があるものと捉え、最終年度は、これらを踏まえて、具体的・即地的に市街地環境総体を評価、検証する枠組みを検討することにした。</p> <p>今年度は、集団規定の性能規定問題を市街地類型別に、事例収集し、整理・分析するため、成果報告書の作成作業を中心に活動を行った。市街地類型及び特性により、規制が緩すぎて不都合な場合(一般市街地、厳しすぎて不都合な場合(歴史的市街地・密集市街地))があると想定し、各事例について以下の視点で、市街地実態と集団規定の関係性に着目した原稿を執筆している。1)市街地の性能について、どのような性能が担保されるべきか仮説的にみる(住環境性能に対する社会的期待)、2)市街地の性能、目標像を担保するためには、どうすればいいのか、3)その町らしさを担保する許容限度、4)市街地の性能を実現・担保する方策。以上により、本小委員会の当初の目的は達成したものと考えている。なお、これらの成果は、来年度建築法制委員会主催の大会研究協議会のテーマとし、報告・議論する予定である。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	